

男女がベック二連覇 史上初 中央地区に敵なし

十月二十二日に笠松運動公園内周回コースにて行われた、第九回中央地区駅伝競走大会において、常澄中学校は男女そろって優勝する快挙を今年度も達成した。

昨年度、史上初のアベック優勝を果たし、今年度は連覇を成し遂げた。今年度は、男子六十三校、女子六十一校が参加し、例年レベルがアップしている中でこのような結果を残すことは奇跡的な快挙である。

なぜ強いのか

常澄中駅伝部は陸上部がないので、朝の練習しか行われていない。ではなぜ強い？平日にもかかわらず、選手の親はもちろん、選手以外の保護者が大きな声で応援し、選手の力を引き出した。

サポーターに回った生徒は、監督の指示のもとに配置されたポイントで正確なラップタイムを選手に伝えた。競技場の最上部にもサポーターの選手がいて、様子をトランシーバーで伝えた。緻密な戦略があった。

選手は指示された学校をマークするなど指示に従える脚力を身に付けている。そして、伝統という自信がこの学校には備わっているのが強い秘訣である。



一区 小高 夏綺さん

走っている時は、一位のペースをいっしょと必死でした。この優勝で優勝カップをもらえてうれしー。来年もとどろいといふ気持ちになりました。

二区 猪狩 涼香さん

絶対に差を縮めようと思っただけで走った。みんなで頑張ったので優勝できたことがうれしかった。

三区 柿 彩香さん

一位でタスキをもらった時はドキドキ不安もあったけど優勝して嬉しー気持ちが大きかったのを覚えています。

四区 須加野 敬さん

練習を頑張ったのが報われた感じがした。

五区 川又 二葉さん

一位でゴールテープを切った時は、常澄中学校の伝統をつなげてほしい。

男子6区 橋本 圭吾さん

一位でタスキを受け取った時はドキドキした。一位でゴールテープを切った時は、常澄中学校の伝統をつなげてほしい。

県大会では、先輩が成し遂げられなかったことを達成したい。

女子は、一区の小高夏綺（二年）が一位に十四秒差の二位でタスキを渡した。区間賞をねらっていた小高にとっては悔しい走りであった。二区の猪狩涼香（二年）が区間賞の走りで一位に十秒差につめた。猪狩は二・三・四区の百八十三人の中でも一番いいタイムを出した。三区の柿彩香（三年）も区間賞の走りをし、ここで一気に逆転し一位に躍り出た。同じ三年生の菅原亜海が残念ながら選手として走れなかった思いを胸に秘めての走りであった。四区の須加野桜（一年）がそのままのリードを保ちアンカーへタスキを渡した。五区の川又二葉（二年）は安定した走りをし、見事二連覇を達成した。

苦戦を予想された男子であったが見事、監督の想像を超えた走りを披露した。

一区の小高隼都（二年）が一位と二十秒差の九位でタスキを渡したことが大きかった。一区はチームのエースが集う区間である。その中でこれだけの差でタスキを渡したことがチーム力がある常澄中には大きかった。二区の島田将悟（三年）が四人を抜き五位でタスキをつなぐと、三区の飛田康佑（三年）も三人を抜き二位でタスキを渡す。四区の吉川浩平（三年）がタスキを受け取った時点で一位とは二十六秒差もあったが、一気に吉川が逆転し一位に躍り出る。五区の荻沼直人（一年）は、なんと区間賞の走りで二位との差を広げた。荻沼は一年生ながら家に帰ってからランニングをするなど努力家である。その成果がここへ出た。アンカーの橋本圭吾（二年）は自己新の走りでリードを保ち見事ゴールテープを切った。大事な大会で、六人中五人が自己新記録を達成するなど、メンタルトレーニングの成果も出た。

今年も男女そろって中央地区ナンバーワンとして県大会に出場する。頑張れ！